

2020年度 中央学院大学
現代教養学部現代教養学科

学生要覧

2020

Faculty of Liberal Arts

建学の精神

公正な社会観と倫理観の涵養

教育理念

公正な社会観と倫理観をそなえた自立した個人の育成をめざし、現代を生き抜くための教養教育を通じて、地域や社会、政治や経済との関わりの中にある自己を深く知り社会参画や社会貢献ができる市民を育成することを目的とする。

学校法人 中央学院 沿革

明治 33 年 (1900 年)	「日本橋簡易商業夜学校」設立
明治 35 年 (1902 年)	「中央商業学校」開校
昭和 23 年 (1948 年)	商業学校を廃し新学制による「中央高等学校」を設置、 商業科、普通科を置く
昭和 26 年 (1951 年)	「学校法人中央学院」設置 「中央商科短期大学」設置
昭和 30 年 (1955 年)	「中央商業高等学校」設置
昭和 41 年 (1966 年)	「中央学院大学」商学部商学科設置 (千葉県我孫子市)
昭和 43 年 (1968 年)	「淡江大学 (台湾)」と合作交流協議書調印
昭和 45 年 (1970 年)	「中央学院高等学校」設置 (千葉県我孫子市)
昭和 51 年 (1976 年)	「メンフィス大学 (米国)」と姉妹校協定書調印
昭和 60 年 (1985 年)	「中央学院大学」法学部法学科設置
平成 10 年 (1998 年)	「中央商業高等学校」を「中央学院大学中央高等学校」と改称
平成 11 年 (1999 年)	「大邱大学校 (韓国)」と学術交流に関する協定書調印
平成 13 年 (2001 年)	「中央学院大学中央高等学校」を江東区亀戸に移転 「中央商科短期大学」廃止
平成 14 年 (2002 年)	法人創立 100 周年を迎える
平成 18 年 (2006 年)	「中央学院大学」大学院商学研究科設置
平成 20 年 (2008 年)	「京畿大学校 (韓国)」と学術交流に関する協定書調印 「我孫子市」と包括協定・覚書調印
平成 21 年 (2009 年)	「長春工業大学 (中国)」と学術交流に関する協定書調印
平成 29 年 (2017 年)	「中央学院大学」現代教養学部現代教養学科設置

教育課程編成と実施の方針及び学位授与の方針

カリキュラムポリシー（教育課程編成と実施の方針）

- ① 「公正な社会観と倫理観」を身に付けるために、「現代社会と人間文化系」、「異文化とコミュニケーション系」という 2 系列 4 科目群からなる教育課程を編成し、幅広い教養を修得できる教育を行う。
- ② ゼミナール教育等において問題解決型の実践的教育を導入し、社会における市民としての役割を認識し、自ら積極的に問題へと立ち向かう姿勢を身に付けられるような取り組みを行う。
- ③ 専門教育を中心に身近な地域と積極的に関わる能力を高め、グローバルな視点から現代社会をとらえる能力を身に付けられるようにするとともに、他者と協調・協働できるコミュニケーション能力を身に付けられるような取り組みを行う。

ディプロマポリシー（学位授与の方針）

- ① 現代社会の基底をなす多様な人間文化や異文化に対する理解を深めることによって、幅広い教養を修得し、「公正な社会観と倫理観」を身に付けている。
- ② 社会における市民としての役割を認識したうえで、社会参画や社会貢献のための問題解決能力やジェネラリストとしての能力を身に付けている。
- ③ 現代社会をその歴史的・思想的な背景からより深く理解したうえで、激動する時代の変化に対応し、他者と協調・協働して社会を改善していく力を身に付けている。

目 次

1. 現代教養学部カリキュラム概要と特色	1
2. 授業科目について	3
3. 留学生のための日本語科目・日本事情科目について	12
4. 科目の履修方法	13
5. 試験・成績評価・卒業について	19
6. その他	23
「現代教養学部」の科目・配当表	巻末

1.現代教養学部カリキュラム概要と特色

1 学位

卒業要件を満たすことにより、以下の学位が授与されます。なお、学位の授与は卒業式(学位記授与式)で行われます。

学士(教養学) 英文名 Bachelor of Liberal Arts

2 セメスター制

セメスター制とは、「学期制」の意味で、1年間を春と秋の2学期に分け、それぞれの学期で授業が終了し、単位が認定されます。4月から始まる学期を「春セメスター」、10月から始まる学期を「秋セメスター」と呼びます。

3 修業年限

修業年限は4年間(8セメスター)です。休学期間を除き、8年間を超えて在籍することはできません。

4 担任制度

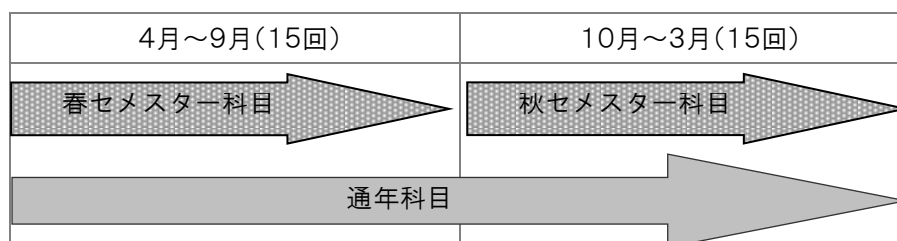
本学の特徴である少人数教育の一環として、教員が担任となり学生の大学生活についての指導や助言を行います。これは学生が入学から卒業まで安心して、かつ有意義に大学生活を送ることができるようにすることを目的としています。

1年次は「基礎演習」の指導教員が担任になります。2年次以降は、「専門基礎演習」、「専門応用演習」、「卒業論文・卒業研究」の指導教員が担任になります。

困ったこと、悩み事などがあったときは、まず担任に相談してください。

5 授業の形態と取得できる単位数

- ① 1科目の授業は毎週1回(90分)を基準とし、講義、演習等の授業を実施します。
- ② 科目の形態は大きく分けると「セメスター科目」「通年科目」に分かれます。
 - ・ 「セメスター科目」とは、半期(セメスター)[週1回×15週]の科目をいいます。
 - ・ 「通年科目」とは、1年間(春・秋セメスター)[週1回×30週]の科目をいいます。



- ・ 科目によっては、「集中授業」という形で実施するものがあります。「集中授業」の場合、「セメスター科目」は15回分の授業を、「通年科目」は30回分の授業を、集中的に決まった期間に実施します。期間や申込方法などは、年度のはじめに実施されるガイダンスや掲示などでお知らせします。

- ③ 授業の内容は大きく分けると「講義」、「ゼミナール(演習)」に分かれます。
- ④ 「単位」は、あらかじめ履修登録した科目について授業内容を理解し、試験や実技などの成績評価により合格することで、**所定の単位数**が認定されます。

- ⑤ 「**単位数**」は以下のとおり設定しています。

授業内容	Semester科目	通年科目
講義	2単位*	
ゼミナール		4単位

* 言語スキル科目のみ1単位。

6 授業時間

授業時間は、以下のとおりです。

1時限	2時限	3時限	4時限	5時限
9:00 ~10:30	10:40 ~12:10	12:50 ~14:20	14:30 ~16:00	16:10 ~17:40

※6時限 17:50—19:20(補講等で活用する特別授業時間)

2. 授業科目について

1 科目系列と卒業所要単位

学士(教養学)の学位を取得するには、卒業所要単位数(卒業に必要な単位数)を修得することが必要です。

なお、卒業所要単位数は124単位ですが、次の科目系列ごとに必要な単位数が不足している場合は卒業できません。不明な点は必ず教務課で確認してください。

区分		科目系列	必修・選択 の区分	系列別 小計	系列別 規定単位数	卒業所要 単位数
基盤教育	導入教育	初年次教育科目	必修	12	50	124
		2年次教育科目		4		
	社会生活に 必要なりテラシー	言語スキル科目	必修	6		
			選択必修	2		
		情報スキル科目	必修	4		
	学問の基礎知識	健康スキル科目	選択必修	2		
		人文の理解科目	選択必修	4		
		社会の理解科目		4		
	自然の理解科目	4				
	任意履修単位(基盤教育)		選択必修	8		
専門教育	専門基礎	現代社会系科目	選択必修	4	16	58
		人間文化系科目		4		
		異文化系科目		4		
		コミュニケーション系科目		4		
		専門基礎実践科目		4		
	現代社会と人間文化系	現代社会系科目	選択必修	4	28	
		人間文化系科目		8		
	異文化と コミュニケーション系	異文化系科目		4		
		コミュニケーション系科目		4		
	任意履修単位(専門教育)			選択		
任意履修単位(専門教育)		選択必修	10			
ゼミナール	ゼミナール科目	必修	16	16		

- (1) 科目の内容、評価方法については、『講義要項(シラバス)』を参照してください。
- (2) 自分の興味や進路を考慮した履修を推進するため、卒業所要単位の中に学生の希望にあわせた選択ができるものとして「任意履修単位」が、基盤教育科目と専門教育科目にそれぞれ設けられています。

各科目系列の系列別小計の単位数を超えて履修した科目を「任意履修単位」として、卒業所要単位数にカウントします（例えば4単位の条件が付された人文の理解科目を6単位修得した場合は2単位が「任意履修単位」に計上されます）。

ただし、卒業所要単位数として算入できる単位は、系列別規程単位数（基盤教育にあつては50単位、専門教育にあつては58単位）を超えることはできません。

- (3) 外国人留学生は留学生のための設置科目を履修することもできます。詳細はP.12を参照してください。

2 科目系列ごとの履修科目

【1】 基盤教育

1. 導入教育

(1) 初年次教育科目

必修科目(卒業所要単位:12単位)

春セメスター	秋セメスター	単位	配当年次
現代教養入門Ⅰ	現代教養入門Ⅱ	各2単位	1年
メディアリテラシー	私たちの生活とコミュニケーション		
日本語表現基礎論	日本語表現実践論		

(2) 2年次教育科目

必修科目(卒業所要単位:4単位)

春セメスター	秋セメスター	単位	配当年次
日本語文章作成基礎論	日本語文章作成実践編	各2単位	2年

2. 社会生活に必要なリテラシー

(1) 言語スキル科目

① 必修科目(卒業所要単位:6単位)

春セメスター	秋セメスター	単位	配当年次
英語リスニング・スピーキング基礎 英語リーディング・ライティング基礎	英語リスニング・スピーキング実践 英語リーディング・ライティング実践	各1単位	1年
コミュニケーション英語基礎(Speaking) コミュニケーション英語基礎(Writing)			2年

② 選択必修科目(卒業所要単位:2単位)

英語以外の外国語(言語スキル科目1・2年生に担当されている科目)は同一言語の「1」と「2」および、「3」と「4」の組み合わせで修得することによって卒業単位とします。また、「コミュニケーション英語実践(Speaking)」と「コミュニケーション英語実践(Writing)」の組み合わせで修得することによって卒業単位とします。

※セットとしている組み合わせで修得できていない科目の単位は卒業単位として認められません。

※所要単位を超えた単位は、「基盤教育」の単位として扱います。

※英語以外の外国語(言語スキル科目1・2年生に担当されている科目)は、1～4まで順番に同じ言語を履修してください。「1」「2」未修得者による「3」「4」の履修は認められません。

※外国人留学生は母国語を履修することはできません。

※「英語会話」と「英語会話実践」はセットではありません。

春セメスター	秋セメスター	単位	配当年次
中国語1	中国語2	各1単位	1～4年
コリア語1	コリア語2		
ドイツ語1	ドイツ語2		
フランス語1	フランス語2		
	コミュニケーション英語実践 (Speaking)		2～4年
	コミュニケーション英語実践 (Writing)		
中国語3	中国語4		
コリア語3	コリア語4		
ドイツ語3	ドイツ語4		
フランス語3	フランス語4		
英語会話	英語会話実践	3・4年	

(2) 情報スキル科目

① 必修科目(卒業所要単位:4単位)

春セメスター	秋セメスター	単位	配当年次
情報リテラシー	情報処理論の基礎	各2単位	1年

② 選択科目(卒業所要単位:修得した単位)

修得した単位は「基盤教育」の単位として扱います。

春セメスター	秋セメスター	単位	配当年次
情報処理論	情報表現論	各2単位	2～4年

(3) 健康スキル科目**選択必修科目(卒業所要単位:2単位)**

必ず1科目2単位を修得すること。所要単位を超えた単位は「基盤教育」の単位として扱います。

春semester	秋semester	単位	配当年次
スポーツ健康論 ストレスマネジメント	スポーツ実践論 メンタルヘルスとセルフケア	各2単位	1～4年

3. 学問の基礎知識**(1) 人文の理解科目****選択必修科目(卒業所要単位:4単位)**

必ず2科目4単位を修得すること。所要単位を超えた単位は「基盤教育」の単位として扱います。

春semester	秋semester	単位	配当年次
哲学概論 倫理学Ⅰ 論理学概論 心理学概論 日本史(前近代) 歴史学(世界史)Ⅰ	哲学と市民社会 倫理学Ⅱ 論理と言語 青年の心理 日本史(近現代) 歴史学(世界史)Ⅱ	各2単位	1～4年

(2) 社会の理解科目**選択必修科目(卒業所要単位:4単位)**

必ず2科目4単位を修得すること。所要単位を超えた単位は「基盤教育」の単位として扱います。

春semester	秋semester	単位	配当年次
法学概論 政治学Ⅰ 憲法概論 経済と社会 民法総則 社会学	法と市民 政治学Ⅱ 統治の制度 経済の歴史 選挙と政治	各2単位	1～4年

(3) 自然の理解科目**選択必修科目(卒業所要単位:4単位)**

必ず2科目4単位を修得すること。所要単位を超えた単位は「基盤教育」の単位として扱います。

春semester	秋semester	単位	配当年次
数学Ⅰ 生物学Ⅰ 自然科学概論Ⅰ 統計学 物理学Ⅰ 地球環境論	数学Ⅱ 生物学Ⅱ 自然科学概論Ⅱ 数理統計学 物理学Ⅱ 自然環境論	各2単位	1～4年

【2】専門教育**1. 専門基礎****(1) 現代社会系科目****選択必修科目(卒業所要単位:4単位)**

必ず2科目4単位を修得すること。所要単位を超えた単位は「専門教育」の単位として扱います。

春semester	秋semester	単位	配当年次
社会思想論 現代の地域行政 流通と消費者	社会学の歴史 ジェンダー論 現代社会論	各2単位	2～4年

(2) 人間文化系科目**選択必修科目(卒業所要単位:4単位)**

必ず2科目4単位を修得すること。所要単位を超えた単位は「専門教育」の単位として扱います。

春semester	秋semester	単位	配当年次
宗教学 発達心理学 健康スポーツ科学	現代思想論 認知心理学	各2単位	2～4年

(3) 異文化系科目**選択必修科目(卒業所要単位:4単位)**

必ず2科目4単位を修得すること。所要単位を超えた単位は「専門教育」の単位として扱います。

春semester	秋semester	単位	配当年次
文化学概論 文化人類学 日本文化論	比較社会論 比較文化論	各2単位	2～4年

(4) コミュニケーション系科目**選択必修科目(卒業所要単位:4単位)**

必ず2科目4単位を修得すること。所要単位を超えた単位は「専門教育」の単位として扱います。

春セメスター	秋セメスター	単位	配当年次
コミュニケーションの基礎 メディア文化論	マスコミュニケーション論 人間科学 人間関係論	各2単位	2～4年

(5) 専門基礎実践科目**選択必修科目(卒業所要単位:4単位)**

以下の表の春セメスターと秋セメスターの科目をセット科目とし、通年での履修を行い、必ず春秋セットで2科目4単位を修得すること。所要単位を超えた単位は「専門教育」の単位として扱います。

※セットとしている科目は、どちらか一方の単位が修得できない場合は卒業単位として認められません。

※春セメスターの単位を修得できない場合は、秋セメスターの科目の履修を取り消します。

※秋セメスターの科目のみ単位修得できていない場合は、翌年度以降の履修方法について、履修登録をする前に教務課に相談してください。(外国文化研究Ⅰ、外国文化研究Ⅱは対象外)

春セメスター	秋セメスター	単位	推奨年次
外国文化研究Ⅰ	外国文化研究Ⅱ	各2単位	1年
異文化社会研修基礎講座	異文化社会現地研修		2年
地域と社会	地域連携講座		
ボランティア学	地域ボランティア実践		
社会調査法	社会調査フィールドワーク		3年

2. 現代社会と人間文化系

(1) 現代社会系科目

選択必修科目(卒業所要単位:4単位)

必ず2科目4単位を修得すること。所要単位を超えた単位は「現代社会と人間文化系」および「異文化とコミュニケーション系」の単位として扱い、さらに所要単位を超えた単位は「専門教育」の単位として扱います。

春semester	秋semester	単位	配当年次
生命科学 現代日本の社会と経済	生命科学と技術 現代アジアの社会と経済	各2単位	2～4年
国際関係論 地域と福祉 環境と社会 男女共同参画論 現代社会の流通システム 労働法の基礎 公共政策と政府の役割	現代世界の政治経済と法 地域と政策 環境問題と水資源 NPO・NGO 概論 ネット社会の流通 労働法の応用 政府の活動と評価		3～4年

(2) 人間文化系科目

選択必修科目(卒業所要単位:8単位)

必ず4科目8単位を修得すること。所要単位を超えた単位は「現代社会と人間文化系」および「異文化とコミュニケーション系」の単位として扱い、さらに所要単位を超えた単位は「専門教育」の単位として扱います。

春semester	秋semester	単位	配当年次
世界史と現代 科学哲学 表現論	現代社会と宗教 社会思想史 文体論	各2単位	2～4年
道徳と教育 日本思想論 中国思想論 ユダヤ教の思想 日本史と現代 日本文学基礎論 道徳と人間発達 比較文学	社会規範と市民 仏教の思想 キリスト教の思想 イスラム教の思想 江戸時代の社会と文化 日本文学実践論 社会と芸術 我孫子と文学		3～4年

3. 異文化とコミュニケーション系

(1) 異文化系科目

選択必修科目(卒業所要単位:4単位)

必ず2科目4単位を修得すること。所要単位を超えた単位は「現代社会と人間文化系」および「異文化とコミュニケーション系」の単位として扱い、さらに所要単位を超えた単位は「専門教育」の単位として扱います。

春semester	秋semester	単位	配当年次
国際文化論 西欧の社会と文化	都市文化論 中国の社会と文化	各2単位	2～4年
中東の社会と文化 英米文学基礎論 スラヴの社会と文化	イスラムの社会と文化 英米文学実践論 宗教文化とツーリズム		3～4年

(2) コミュニケーション系科目

選択必修科目(卒業所要単位:4単位)

必ず2科目4単位を修得すること。所要単位を超えた単位は「現代社会と人間文化系」および「異文化とコミュニケーション系」の単位として扱い、さらに所要単位を超えた単位は「専門教育」の単位として扱います。

春semester	秋semester	単位	配当年次
情報社会と倫理 異文化コミュニケーション論	地域コミュニケーション スポーツとコーチング	各2単位	2～4年
家族社会学 産業心理学 ビジネスコミュニケーション論	メディアコミュニケーション論 ダイバーシティ論 視覚化表現とコミュニケーション		3～4年

【3】ゼミナール

◎ゼミナール科目について

必修科目(卒業所要単位:16単位)

1年次に、大学での学修を円滑に進めていく上で必要な基礎的な知識、技能や教養を身につけるための「基礎演習」を履修します。2年次以降は、3年間同一の指導教員の下、「専門基礎演習」、「専門応用演習」を段階的に学びます。4年次「卒業論文・卒業研究」では、各年次で学んだ知識の集大成として、卒業論文・卒業研究としてまとめ発表します。

通年	単位	配当年次
基礎演習	各4単位	1年
専門基礎演習		2年
専門応用演習		3年
卒業論文・卒業研究		4年

2年次「専門基礎演習」の選択は、1年次の10～11月に演習説明会を経て選考を行い決定します。「演習説明会」では、各演習指導教員が、3年間の研究分野(研究テーマ)や研究手法の概要、選考方法などについての説明をします。その後、各自が受講する演習の指導教員の選考を受け、受講許可されると履修する演習が決定します。(詳細は、学内掲示等でお知らせします)

3.留学生のための日本語科目・日本事情科目について

外国人留学生のみが履修できる選択科目が、留学生が必ず単位を修得しなければならないものではありません。修得した単位は、「基盤教育」の単位として扱います。必ずしも1及び2をセットで単位修得する必要はありません。

選択科目

春semester	秋semester	単位	配当年次
日本語読解1	日本語読解2	各1単位	1～4年
日本語作文1	日本語作文2		
日本語表記1	日本語表記2		
日本語会話1	日本語会話2		
日本語特講1	日本語特講2		
日本語理解1	日本語理解2		

選択科目

春semester	秋semester	単位	配当年次
日本事情A	日本事情B	各2単位	2～4年

4.科目の履修方法

1 科目の履修方法

多くの科目は自由に選択することができます。そのため、自分で履修する科目を決め時間割を作成しなければなりません。

そして、履修科目を決めた後、科目の担当教員に履修の意思を伝える必要があります。この手続きを「履修登録」といいます。**履修登録をしなければ、単位を修得することができません。**

期間内に履修登録が行われない場合、修学意思がないものとして、学則第60条2.「修学意欲なく学力が低下し大学で定められた教育課程の修得の見込みがないと認められた者」に基づき懲戒処分とすることがあります。

1. 履修登録の時期

履修登録は、各セメスターの初めに行います。指定された期間に登録をしなければ、授業を受けることができません。履修登録の期間・方法については、ガイダンス又は学生ポータルサイトでお知らせします。

2. 履修登録の条件

履修登録にはいくつかの条件があります。次のような条件を満たさないと登録はできません。

◆配当年次

配当年次に達していない場合は履修登録することができません。配当年次に従って履修します。

◆クラス指定・時間割指定

各年度の初めに配布される『講義時間割』を見て科目を履修しますが、クラスごとに履修科目の曜日や時限が決められていることがあります。

◆最大履修単位数

年間の学修が無理なくできるように、履修可能な単位数には、セメスターごとに上限があります。履修登録の際には(1)の最大履修単位数を守ってください。

(1) 1年間に履修できる**最大履修単位数**は次の通りです。

学 年 \ セメスター	春セメスター	秋セメスター
1年次	21単位	21単位
2年次	21単位	21単位
3年次	20単位	22単位
4年次	20単位	22単位

※通年科目の単位数は、最大履修単位数の計算上、各セメスターで半分ずつカウントします。

※セメスター科目の集中授業は、実施時期のセメスター単位にカウントします。

※単位を修得するためには、授業時間の倍の自習時間が前提となっています。

(2) 次のような履修登録はできません。

- ① すでに単位を修得している科目を再び履修すること。
- ② 上級年次に配当されている科目および下級年次に新設された科目を履修すること。
- ③ 学年・クラスが指定されているにもかかわらず、自己の都合で指定以外の学年・クラスで同一の科目を履修すること。
- ④ 同一時限に2科目以上を履修すること。

(3) 履修届提出上の注意

- ① 履修登録期間・方法についてはガイダンス又は学生ポータルサイトでお知らせします。指定の期間以外は受け付けません。
- ② 登録期間を過ぎてからの履修登録はできません。病気、その他やむを得ない理由で、所定の期日まで登録手続きができない場合は、事前に教務課で相談してください。
- ③ 履修登録期間後に登録済の科目および担当教員を自己の都合で変更することはできません。なお時間割、担当教員が変更された場合は教務課掲示板又は学生ポータルサイトにてお知らせします。その場合は教務課の指示内容の範囲で変更が認められます。
- ④ **履修取消**は、決められた期間内に、教務課で手続きをしなければなりません。ただし、必修科目は取り消しができません。詳細は、教務課掲示板又は学生ポータルサイトで確認してください。なお、取り消した科目の代わりに他の科目を追加することはできません。
- ⑤ **履修方法に関する疑問**は教務課で確認してください。疑問点をそのままにしておき、自己判断で誤った履修をすると卒業できなくなる場合があるので、必ず**教務課で相談してください**。
- ⑥ 履修登録は必ず本人が行ってください。
- ⑦ 千葉県単位互換協定に基づく他大学(放送大学を含む)での修得単位
千葉県内の単位互換協定締結校で単位を修得することができます。3月下旬に各大学より送付される募集要項は、教務課で閲覧することができます。最大履修単位数の範囲内であれば、卒業までに30単位を上限に履修できます。詳細については、教務課にお問い合わせください。・

2 履修モデル

卒業後のキャリアを意識した履修ができるよう4つの履修モデルを設定していますので参考にしてください。

履修モデル①【現代社会系科目(地域に根差した企業・公的団体)】

現代社会系科目を中心に履修することにより、社会、地域、政治、経済、国際関係などの現代社会の仕組みや地域社会をはじめ、自己を取り巻く環境の諸問題を学び、社会現象の本質を認識し、問題解決策を探求できるような市民力を養成していくことを目標としています。

地元企業の営業、事務、総合職、調査・企画部門等の他、社会福祉関係等の非営利団体、NPO職員などへの就職を目指すための履修モデルです。

(1年次)

区分		科目系列	第1 Semester(春)	第2 Semester(秋)
基盤教育	導入教育	初年次教育	○現代教養入門Ⅰ(2)	○現代教養入門Ⅱ(2)
			○メディアリテラシー(2)	○私たちの生活とコミュニケーション(2)
	社会生活に必要なリテラシー	言語スキル	○日本語表現基礎論(2)	○日本語表現実践論(2)
			○英語リスニング・スピーキング基礎(1)	○英語リスニング・スピーキング実践(1)
		○英語リーディング・ライティング基礎(1)	○英語リーディング・ライティング実践(1)	
		第二外国語1(1)	第二外国語2(1)	
		情報スキル	○情報リテラシー(2)	○情報処理論の基礎(2)
		健康スキル	スポーツ健康論(2)	
	学問の基礎知識	人文の理解	倫理学Ⅰ(2)	倫理学Ⅱ(2)
		社会の理解	政治学Ⅰ(2)	政治学Ⅱ(2)
自然の理解		生物学Ⅰ(2)	生物学Ⅱ(2)	
ゼミナール	ゼミナール	○基礎演習(4)		
単位数計			(21)	(19)

(2年次)

区分		科目系列	第3 Semester(春)	第4 Semester(秋)
基盤教育	導入教育	2年次教育	○日本語文章作成基礎論(2)	○日本語文章作成実践論(2)
	社会生活に必要なリテラシー	言語スキル	○コミュニケーション英語基礎(Speaking)(1)	コミュニケーション英語実践(Speaking)(1)
			○コミュニケーション英語基礎(Writing)(1)	コミュニケーション英語実践(Writing)(1)
	学問の基礎知識	社会の理解	経済と社会(2)	経済の歴史(2)
自然の理解		統計学(2)		
専門教育	専門基礎	現代社会系	現代の地域行政(2)	現代社会論(2)
		人間文化系	健康スポーツ科学(2)	認知心理学(2)
		コミュニケーション系	コミュニケーションの基礎(2)	人間関係論(2)
		専門基礎実践	地域と社会(2)	地域連携講座(2)
	現代社会と人間文化系	現代社会系	現代日本の社会と経済(2)	現代アジアの社会と経済(2)
ゼミナール	ゼミナール	○専門基礎演習(4)		
単位数計			(20)	(18)

(3年次)

区分		科目系列	第5 Semester(春)	第6 Semester(秋)	
専門教育	専門基礎	異文化系	文化学概論(2)	比較社会論(2)	
		現代社会と人間文化系	現代社会系	地域と福祉(2)	現代世界の政治経済と法(2)
			労働法の基礎(2)	地域と政策(2)	
	人間文化系	科学哲学(2)	NPO・NGO概論(2)		
	異文化系科目	異文化系	西欧の社会と文化(2)	社会思想史(2)	
	コミュニケーション系	コミュニケーション系	中国の社会と文化(2)	ダイバーシティ論(2)	
コミュニケーション系	コミュニケーション系	情報社会と倫理(2)			
ゼミナール	ゼミナール	○専門応用演習(4)			
単位数計			(14)	(16)	

(4年次)

区分		科目系列	第7 Semester(春)	第8 Semester(秋)
専門教育	現代社会と人間文化系	現代社会系	環境と社会(2)	環境問題と水資源(2)
		人間文化系	公共政策と政府の役割(2)	
	コミュニケーション系	コミュニケーション系	日本史と現代(2)	社会規範と市民(2)
コミュニケーション系	コミュニケーション系	産業心理学(2)		
ゼミナール	ゼミナール	○卒業論文・卒業研究(4)		
単位数計			(10)	(6)

(注1)○は必修科目

(注2)科目名の後ろにある()内の数字は単位数です。

履修モデル②【人間文化系科目（一般企業の人材育成部門、教育機関等での学習支援）】

人間文化系を中心に履修することにより、哲学・倫理・思想・宗教・芸術・文学・歴史など、さまざまな人間文化を修得することで、物事の善悪や社会規範、自己規律を体得した教養力を備えた人材の養成を目標としています。

学校等の一般事務職、教育活動支援を行う NPO 団体等の職員、社会教育施設や学習塾等の職員（事務・運営スタッフ・教材開発支援）などへの就職を目指すための履修モデルです。

(1年次)

区分		科目系列	第1 Semester(春)	第2 Semester(秋)	
基盤教育	導入教育	初年次教育	○現代教養入門Ⅰ (2)	○現代教養入門Ⅱ (2)	
			○メディアリテラシー (2)	○私たちの生活とコミュニケーション (2)	
			○日本語表現基礎論 (2)	○日本語表現実践論 (2)	
	社会生活に必要なリテラシー	言語スキル	○英語リスニング・スピーキング基礎 (1)	○英語リスニング・スピーキング実践 (1)	
			○英語リーディング・ライティング基礎 (1)	○英語リーディング・ライティング実践 (1)	
			第二外国語1 (1)	第二外国語2 (1)	
			情報スキル	○情報リテラシー (2)	○情報処理論の基礎 (2)
	学問の基礎知識	健康スキル	スポーツ健康論 (2)		
			人文の理解	哲学概論 (2)	哲学と市民社会 (2)
			社会の理解	社会学 (2)	法と市民 (2)
ゼミナール	ゼミナール	数学Ⅰ (2)	数学Ⅱ (2)		
		○基礎演習 (4)			
単位数計			(21)	(19)	

(2年次)

区分		科目系列	第3 Semester(春)	第4 Semester(秋)
基盤教育	導入教育	2年次教育	○日本語文章作成基礎論 (2)	○日本語文章作成実践論 (2)
			○コミュニケーション英語基礎(Speaking) (1)	
	社会生活に必要なリテラシー	言語スキル	○コミュニケーション英語基礎(Writing) (1)	
			第二外国語3 (1)	第二外国語4 (1)
学問の基礎知識	人文の理解	心理学概論 (2)	青年の心理 (2)	
専門教育	専門基礎	現代社会系	社会思想論 (2)	ジェンダー論 (2)
		人間文化系	発達心理学 (2)	認知心理学 (2)
		コミュニケーション系	コミュニケーションの基礎 (2)	人間科学 (2)
		専門基礎実践	ボランティア学 (2)	地域ボランティア実践 (2)
	現代社会と人間文化系	人間文化系	世界史と現代 (2)	現代社会と宗教 (2)
	異文化とコミュニケーション系	コミュニケーション系	異文化コミュニケーション論 (2)	スポーツとコーチング (2)
ゼミナール	ゼミナール	○専門基礎演習 (4)		
単位数計			(21)	(19)

(3年次)

区分		科目系列	第5 Semester(春)	第6 Semester(秋)
基盤教育	社会生活に必要なリテラシー	言語スキル	英語会話 (1)	英語会話実践 (1)
専門教育	専門基礎	異文化系	文化人類学 (2)	比較文化論 (2)
		現代社会系	地域と福祉 (2)	
	現代社会と人間文化系	人間文化系	道徳と教育 (2)	社会規範と市民 (2)
			日本思想論 (2)	仏教の思想 (2)
	異文化とコミュニケーション系	異文化系	英米文学基礎論 (2)	英米文学実践論 (2)
		コミュニケーション系	家族社会学 (2)	ダイバーシティ論 (2)
ゼミナール	ゼミナール	○専門応用演習 (4)		
単位数計			(15)	(13)

(4年次)

区分		科目系列	第7 Semester(春)	第8 Semester(秋)
専門教育	現代社会と人間文化系	現代社会系		NPO・NGO概論 (2)
		人間文化系	中国思想論 (2)	キリスト教の思想 (2)
			道徳と人間発達 (2)	
	異文化とコミュニケーション系	異文化系	西欧の社会と文化 (2)	中国の社会と文化 (2)
ゼミナール	ゼミナール	○卒業論文・卒業研究 (4)		
単位数計			(8)	(8)

(注1)○は必修科目

(注2)科目名の後ろにある()内の数字は単位数です。

履修モデル③【異文化系科目(グローバル企業、旅行、運輸・流通)】

異文化系科目を中心に履修することにより、西欧、中国、中東、イスラム、スラブなど異文化社会を理解し、自分と異なる考え方を持つ人々と共生し、諸外国と日本の関係など現代社会の課題を解決する市民力を養うことを目標としています。

グローバル企業、海外で事業展開する国内企業の営業や事務職、旅行会社の企画、ツアーコンダクター、運輸・流通関連会社での貿易事務などへの就職を目指すための履修モデルです。

(1年次)

区分		科目系列	第1 Semester(春)	第2 Semester(秋)
基盤教育	導入教育	初年次教育	○現代教養入門Ⅰ (2)	○現代教養入門Ⅱ (2)
			○メディアリテラシー (2)	○私たちの生活とコミュニケーション (2)
			○日本語表現基礎論 (2)	○日本語表現実践論 (2)
	社会生活に必要なリテラシー	言語スキル	○英語リスニング・スピーキング基礎 (1)	○英語リスニング・スピーキング実践 (1)
			○英語リーディング・ライティング基礎 (1)	○英語リーディング・ライティング実践 (1)
			第二外国語1 (1)	第二外国語2 (1)
			○情報リテラシー (2)	○情報処理論の基礎 (2)
	学問の基礎知識	健康スキル	人文の理解	日本史(前近代) (2)
			社会の理解	日本史(近現代) (2)
			自然の理解	経済と社会 (2)
ゼミナール	ゼミナール	○基礎演習 (4)	自然環境論 (2)	
単位数計			(21)	(19)

(2年次)

区分		科目系列	第3 Semester(春)	第4 Semester(秋)
基盤教育	導入教育	2年次教育	○日本語文章作成基礎論 (2)	○日本語文章作成実践論 (2)
	社会生活に必要なリテラシー	言語スキル	○コミュニケーション英語基礎(Speaking) (1)	
			○コミュニケーション英語基礎(Writing) (1)	
			第二外国語3 (1)	第二外国語4 (1)
学問の基礎知識	人文の理解	歴史学(世界史)Ⅰ (2)	歴史学(世界史)Ⅱ (2)	
専門教育	専門基礎	現代社会系	流通と消費者 (2)	現代社会論 (2)
		人間文化系	宗教学 (2)	現代思想論 (2)
		コミュニケーション系	コミュニケーションの基礎 (2)	人間関係論 (2)
		専門基礎実践	異文化社会研修基礎講座 (2)	異文化社会現地研修 (2)
		異文化系科目とコミュニケーション系	異文化系	西欧の社会と文化 (2)
コミュニケーション系	異文化コミュニケーション論 (2)			
ゼミナール	ゼミナール	○専門基礎演習 (4)		
単位数計			(21)	(17)

(3年次)

区分		科目系列	第5 Semester(春)	第6 Semester(秋)
基盤教育	社会生活に必要なリテラシー	言語スキル	英語会話 (1)	英語会話実践 (1)
専門教育	専門基礎	異文化系	文化学概論 (2)	比較文化論 (2)
		現代社会系	国際関係論 (2)	現代アジアの社会と経済 (2)
		人間文化系	世界史と現代 (2)	キリスト教の思想 (2)
	異文化系科目とコミュニケーション系	異文化系	中東の社会と文化 (2)	イスラム教の思想 (2)
		コミュニケーション系	情報社会と倫理 (2)	イスラムの社会と文化 (2)
ゼミナール	ゼミナール	○専門応用演習 (4)		
単位数計			(13)	(15)

(4年次)

区分		科目系列	第7 Semester(春)	第8 Semester(秋)
専門教育	現代社会と人間文化系	現代社会系	現代社会の流通システム論 (2)	ネット社会の流通 (2)
		人間文化系	比較文学 (2)	
	異文化系科目とコミュニケーション系	異文化系	スラブの社会と文化 (2)	宗教文化とツーリズム (2)
		コミュニケーション系	ビジネスコミュニケーション論 (2)	視覚化表現とコミュニケーション (2)
ゼミナール	ゼミナール	○卒業論文・卒業研究 (4)		
単位数計			(10)	(8)

(注1)○は必修科目

(注2)科目名の後ろにある()内の数字は単位数です。

履修モデル④【コミュニケーション系科目（一般企業の広報部門）、出版・マスコミ関連】

コミュニケーション系科目を中心に履修することにより、他者との関わり方を学び、豊かな人間関係を育むためコミュニケーションや情報、メディアに対する理解を深め、市民力を高めていくことを目標としています。

一般企業の広報や宣伝部門、広告制作や出版・印刷、マスコミ関連などへの就職を目指すための履修モデルです。

(1年次)

区分		科目系列	第1セメスター(春)	第2セメスター(秋)
基盤教育	導入教育	初年次教育	○現代教養入門Ⅰ(2)	○現代教養入門Ⅱ(2)
			○メディアリテラシー(2)	○私たちの生活とコミュニケーション(2)
	社会生活に必要なリテラシー	言語スキル	○日本語表現基礎論(2)	○日本語表現実践論(2)
			○英語リスニング・スピーキング基礎(1)	○英語リスニング・スピーキング実践(1)
			○英語リーディング・ライティング基礎(1)	○英語リーディング・ライティング実践(1)
			第二外国語Ⅰ(1)	第二外国語Ⅱ(1)
	学問の基礎知識	情報スキル	○情報リテラシー(2)	○情報処理論の基礎(2)
健康スキル		スポーツ健康論(2)		
人文の理解		倫理学Ⅰ(2)	倫理学Ⅱ(2)	
社会の理解		憲法概論(2)	選挙と政治(2)	
専門教育	専門基礎	専門基礎実践	外国文化研究Ⅰ(2)	外国文化研究Ⅱ(2)
	ゼミナール	ゼミナール	○基礎演習(4)	
単位数計			(21)	(19)

(2年次)

区分		科目系列	第3セメスター(春)	第4セメスター(秋)	
基盤教育	導入教育	2年次教育	○日本語文章作成基礎論(2)	○日本語文章作成実践論(2)	
			○コミュニケーション英語基礎(Speaking)(1)	コミュニケーション英語実践(Speaking)(1)	
	社会生活に必要なリテラシー	言語スキル	○コミュニケーション英語基礎(Writing)(1)	コミュニケーション英語実践(Writing)(1)	
			情報スキル	情報処理論(2)	情報表現論(2)
			健康スキル		メンタルヘルスとセルフケア(2)
学問の基礎	自然の理解	自然科学概論Ⅰ(2)	自然科学概論Ⅱ(2)		
専門教育	専門基礎	現代社会系	社会思想論(2)	現代社会論(2)	
		人間文化系	発達心理学(2)	認知心理学(2)	
		コミュニケーション系	メディア文化論(2)	マスコミュニケーション論(2)	
		異文化系	国際文化論(2)	都市文化論(2)	
	異文化とコミュニケーション	コミュニケーション系	情報社会と倫理(2)		
	ゼミナール	ゼミナール	○専門基礎演習(4)		
単位数計			(20)	(20)	

(3年次)

区分		科目系列	第5セメスター(春)	第6セメスター(秋)
専門教育	専門基礎	異文化系	日本文化論(2)	比較文化論(2)
		現代社会系	国際関係論(2)	現代世界の政治経済と法(2)
	現代社会と人間文化系	人間文化系	世界史と現代(2)	日本文学実践論(2)
			日本思想論(2)	
			日本文学基礎論(2)	
	異文化とコミュニケーション	異文化系	西欧の社会と文化(2)	中国の社会と文化(2)
コミュニケーション系		異文化コミュニケーション論(2)	メディアコミュニケーション論(2)	
	ゼミナール	ゼミナール	○専門応用演習(4)	
単位数計			(16)	(12)

(4年次)

区分		科目系列	第7セメスター(春)	第8セメスター(秋)
専門教育	現代社会と人間文化系	人間文化系	日本史と現代(2)	我孫子と文学(2)
	異文化とコミュニケーション系	異文化系	スラブの社会と文化(2)	イスラムの社会と文化(2)
		コミュニケーション系	産業心理学(2)	視覚化表現とコミュニケーション(2)
	ゼミナール	ゼミナール	○卒業論文・卒業研究(4)	
単位数計			(8)	(8)

(注1)○は必修科目

(注2)科目名の後ろにある()内の数字は単位数です。

5.試験・成績評価・卒業について

1 評価の方法

各 Semester 終了時に、**成績評価**を行います。

成績評価の方法には以下のような形態があります。

- (1) 定期試験
- (2) レポート・小テスト
- (3) 発表・質疑応答・体験実践等

定期試験については、**担当教員の指示**により受験してください。

なお、**定期試験の時間割**は、定期試験開始の1週間前に**教務課掲示板**へ掲示します。

2 単位認定・GPAについて

1. 単位認定について

単位認定の結果は、「秀・優・良・可・不可」で表し、「秀・優・良・可」は合格とし所定の単位が与えられますが、「不可」は不合格とし単位不認定となります。

評価	素点	GP
秀	90 点以上	GP 4.0
優	89～80 点	GP 3.0
良	79～70 点	GP 2.0
可	69～60 点	GP 1.0
不可	59 点以下	GP 0.0

2. GPA(Grade Point Average)について

GPAとは、各科目の成績から特定の方法によって算出された学生の成績評価値のこと、あるいはその成績評価方式のことをいいます。留学の際など学力を測る指標となります。100点を満点として成績評価される(秀～不可の成績がつく)科目が対象となります。

GPAの算出方法は、履修登録した各授業科目の単位数にそれぞれのGPを掛けた値の合計を、単位数の合計(不可も含む)で割った数値となります。

$$GPA = \frac{(GP \times \text{単位数}) + (GP \times \text{単位数}) + (GP \times \text{単位数}) + \dots}{\text{単位数の合計(不可も含む)}}$$

3. 成績発表について

成績発表については、学生ポータルサイトで確認することができます。新年度の履修は主にこの成績を基に選択・履修していくこととなります。また、保証人宛にも「学業成績簿」を郵送します。

3 定期試験の受験資格

定期試験を受験するには、原則として以下の条件が必要です。

1. 履修登録していること。
2. 授業回数の3分の2以上出席していること。
(病気、忌引等止むを得ない理由で授業を欠席した場合は、学生課に欠席届を提出してください)
3. 授業料を納入していること。

4 定期試験受験上の注意事項

以下は基本的な注意事項です。科目によって、多少異なる場合もあります。担当教員・監督者の指示に従ってください。

1. 学生証を机上に提示してください。
(学生証を忘れた場合、試験期間中1回(当日)に限り、教務課で「受験許可証」を発行します)
2. 15分以上遅刻すると受験できません。また、20分以上経過しないと試験会場から退室できません。
退室の場合は必ず答案用紙を提出してください。

※試験期間中の自動車・バイク通学での遅刻は理由になりません。(P. 24「遅延証明書について」)

3. テキストやノート等、持込参照物は担当教員の指示に従ってください。
4. 試験において不正行為をした者は「試験不正行為取締懲戒規程」に従い処分されます。(不正行為をした者は、以後の受験を停止し、「全科目無効」、「譴責」、「停学」等の処分が科せられます。)
5. 情報端末(スマートフォン・携帯電話・タブレット・スマートウォッチ・携帯音楽プレイヤー等)を時計として使用することは一切認められません。試験開始前にこれらの電源は切りカバン等にしまっておいてください。万が一、電源が切れておらず試験中に着信音等がなった場合、挙手をし監督者に知らせ、監督者の指示に従ってください。監督者の指示に従わない場合(監督者の指示を待たず携帯電話に触れる等)、不正行為とみなします。

5 追試験について

病気その他、止むを得ない理由により定期試験を受けられなかったと認められる場合を対象に、各 Semester末に1回のみ追試験を行います。

なお、受験には所定の手続きが必要になります。教務課掲示板又は学生ポータルサイトに掲示されますので、その指示に従ってください。追試験の手続きに必要なものは以下のとおりです。

1. 追試験受験願(申込会場で配付)
2. 定期試験を受験できなかった理由となる証明書類

受験できなかった理由	必要な証明書類及び届出の内容
本人の病気・けが・体調不良	医師の発行する診断書・レシート等 (加療期間がわかるもの)
交通機関の遅延	各種交通機関発行の遅延証明書 ※居住地からの交通機関に限る

3 親等内の血族の死亡又は葬儀	会葬礼状等、公的証明書又は日程がわかるもの
就職試験（選考面接を含む）	受験先企業が受験の事実を証明した書類（様式は学生ポータルサイトから各自ダウンロードしてください） ※企業説明会や企業セミナーは認められません
裁判員制度による裁判員（候補者）への選出	裁判所より発行される証明書

3. 追試験受験の際は、**学生証**と申込時の**受験許可証**が必要となります。

6 再試験について

1～3年次においては、**原則として必修科目**（当該履修年度科目のみ）が**不合格となった場合、1回のみ**再試験を受けることができます。

また、4年次においては、**原則として不合格となった全科目**（当該履修年度科目のみ）に対して**1回のみ**再試験を受けることができます。

なお、受験には**所定の手続き**が必要になります。**教務課掲示板**に掲示されますので、その指示に従ってください。再試験の条件等は以下のとおりです。

1. 出席不足などで再試験停止となった科目は申し込みできません。
2. **再試験受験料**として1科目につき所定の金額を納入して下さい。
3. 試験の際は、**学生証**と申込時の**領収証兼受験許可証**が必要となります。
4. 評価は「可」又は「不可」のいずれかとなり、「秀」「優」「良」はつきません。

7 成績調査申請

成績評価（秀・優・良・可・不可）を受けた科目の中で、自身のレポート提出状況、試験の解答等から判断して成績評価に疑問がある場合には、成績についての調査を申請できます。

申請手続は、教務課のお知らせを確認してください。

8 単位修得不足に関する措置

1・2年次において単位が十分に修得できないと、その後の学年での勉学に大きな負担となるだけでなく、4年間での卒業が困難になることもあります。現代教養学部では4年間で卒業できるように注意を喚起するため、修得単位の少ない学生には以下のように対応します。

以下のような警告等を受けることのないよう1年次から計画的に勉学に取り組んでください。

1. 1・2年次において、単位の修得が十分でない学生には、下記の基準により警告を行います。また、必要に応じて個別の指導を行います。
2. 2年次以降、未修得の必修科目は再履修し、単位を修得しなければなりません。

年次	修得単位が不足の場合
1年次終了時 (最大履修単位数42単位)	20単位以下→「警告」 ・ 残り3年間で104単位以上修得が必要
2年次終了時 (最大履修単位数42単位)	41単位以下→「嚴重警告」 ・ 残り2年間で83単位以上修得が必要

※なお、3年次終了時に82単位以上修得していないと4年間で卒業することはできません。(82単位以上を修得していても、必修科目の単位が不足している等の場合には卒業できないこともあります。)

9 卒業

以下の条件を満たすと、卒業となります

1. 4年以上8年以内の**在学期間**(休学期間を除く)があること。
2. 体系的に教育課程を履修・修得し、卒業所要単位として124単位以上を修得していること。なお、**卒業時期**は、各セメスターの終了する**9月と3月**です。
3. 本学では、4年を超えて在学し、卒業所要単位を修得した場合には、9月卒業が可能です。なお、通常進級した新4年生は、9月末までの在学期間は3.5年ですので、9月卒業はできません。

6.その他

1 学生への連絡について

教務課からの各種連絡は、教務課掲示板又は学生ポータルサイトを通して行うので、必ず毎日確認して下さい。

※連絡の見落としによる不利益は学生本人が負うこととなりますので注意してください。

1. 教室の変更
2. 授業の休講・・・科目の担当教員に、病気・出張等のやむを得ない事情が生じた場合、授業を休講とすることがあります。休講情報は、学生ポータルサイトで確認することができます。
3. 授業に関する連絡事項
4. 呼び出し
5. その他、必要な連絡事項

2 学生による授業評価アンケート

本学では、科目ごとに「授業評価アンケート」を実施します。以下の趣旨や要領を理解の上、授業評価アンケートに協力してください。

1. 趣旨と要領
 - (1) 授業内容をより充実したものにするために、それぞれの授業の現状を把握・検討し、その改善を図ります。
 - (2) 授業に関連する施設(情報機器、体育関連施設、図書館等)をより充実したものにするためにその現状を把握し、その改善を図ります。
 - (3) 結果を公表します。
2. アンケートの回答方法

担当者の指示に従い、所定の方法でアンケートへ回答してください。

 - (1) 回答は無記名です。また、学生本人が特定される情報の記載はありません。
したがって、誰が回答したか全くわからないようになっています。
 - (2) 回答が成績評価等に影響を与えることはありません。

3 入学前の既修得単位の認定

入学前に他の大学又は短期大学等において修得した単位については、審査により、30単位を超えない範囲で本学の単位として認定される場合があります。

希望者は1年次の授業開始日までに以下の申請書類を添えて教務課に提出してください。

1. 入学者の既修得単位認定願書
2. 認定希望の単位に関する証明書
3. 認定希望の単位に関する講義要項(写し)

なお、この単位認定により、修業年限の短縮・最大履修単位数の変更はありません。

4 欠席等に関する諸注意

1. 特別出席扱願について

クラブ活動等のために授業を欠席した場合は、学生課に届け出て確認を受けた上で、その旨を各科目担当教員に申し出てください。ただし、出席扱いとするかどうかは、各教員の判断に任されているので注意してください。

2. 欠席届について

傷病・忌引き等、やむを得ない事情により授業を欠席した場合には、欠席届を提出することができます。詳細は学生課で相談してください。

3. 遅延証明書について

電車の遅延によって授業中の試験や定期試験を受験できなかった場合は、必ず利用駅で遅延証明書を受け取ってください。

なお、車両(自動車、二輪車)通学での遅刻は「証明書」の発行が受けられないので、申請できません。

4. 教務課関係の諸届及び諸経費納入について

	諸届用紙名	備考
試験に関するもの	受験許可証	試験期間中 1 回に限り発行 (有効期限は発行日当日のみ)
	追・再試験申込書	追試験・再試験は各 Semester 末に実施 (20～21 ページ参照)
諸経費納入に関するもの	再試験料	追・再試験申込者が納入
成績に関するもの	学業成績簿	学生ポータルサイトで確認可能 (「成績証明書」の申し込みは学生課)

5 公共交通機関の運行中止や天災の場合の授業と試験について

交通機関の運行中止(運転見合わせ・不通・ストライキ)や天災(台風など)等で通学できない場合の授業と試験は、下記の通りとします。

1. 運行中止の対象とする交通機関

JR常磐線快速線とJR常磐線各駅停車(千代田線)の両方が、**柏駅と我孫子駅間で運行中止となった場合を対象とします。**

JR成田線、JR常磐線(快速・各駅停車)我孫子駅より取手方面、つくばエクスプレス、関東鉄道、JR武蔵野線や東武野田線などが運行中止となった場合は**対象としません。**

2. 運行中止による授業と試験について

運行中止状況	授業・試験対応
午前6時までに解除された場合	第1時限から開始
午前9時までに解除された場合	第3時限から開始
正午までに解除された場合	第4時限から開始
正午までに解除されない場合	1日休講(試験は延期)

3. 暴風警報等が発令された場合

暴風警報または**暴風雪警報**が千葉県北西部に発令された場合は、**交通機関の運行中止の対応と同じとします。**

他の地域に発令されても**対象になりません。**同様に、大雨警報、大雪警報、洪水警報のみの場合は**対象としません。**

- 遅刻や登校不能な場合は、交通機関の**遅延証明書**等を取得し、すみやかに学生課で手続きをしてください。
- 試験は可能な限り実施する予定ですが、状況により実施できない場合もあります。
- 延期になった試験の実施は、後日、学内の掲示板又は学生ポータルサイトで案内します。

6 補講

やむを得ない理由で授業が休講になり(休講についてはP. 23を参照)、授業回数が不足した場合、**補講期間**に授業を行い休講分を補います。これを**補講**といいます。

詳細は**教務課掲示板**又は**学生ポータルサイト**でお知らせします。**通常の曜日・時限と異なる場合**もありますので、**掲示をよく確認**してください。

7 転学部

本学の他学部へ転学部を希望する者に対し、以下の要領に従って許可することがあります。

1. 在学期間中1回に限ります。
2. 転学部の学年は原則として2年次とする。（申請は1年次末）ただし、特別の事情がある場合に限り、3年次の転学部を認めます。
3. （2年次から転学部を希望する場合）1年次修了時に30単位以上修得していることが条件となります。
（3年次の場合は、2年次終了時に70単位以上修得していることが条件となります。）
4. 申請手続きは、原則1年次の2月初旬です。詳細は事前に教務課にお問い合わせください。
5. 審査は書類審査と面接審査です。
6. 審査結果は3月中に通知します。
7. 許可通知後、定められた期間内に所定の手続きが行われない場合は、辞退したことになります。

8 アクティブセンターの講座

本学では通常のカリキュラムの他に、社会人・学生を対象とした公開講座、資格取得講座を開講しています。このアクティブセンターの講座について、本学の学生には受講料を補助する制度があります。

受講の方法・講座の内容・開講時期などの詳細は、ホームページ及び本館5階アクティブセンター窓口で確認してください。

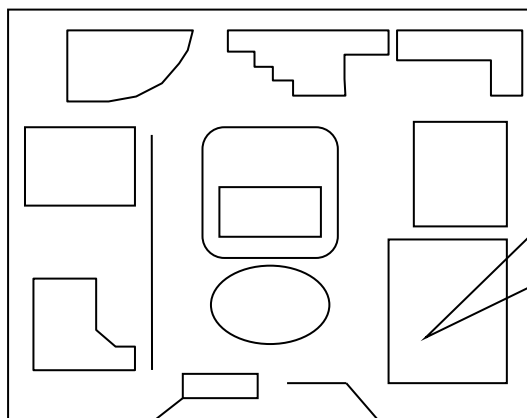
◆ 各種資格取得講座

各種資格取得講座の受講料が、一般社会人の1/2の金額で受講できます。国家資格試験合格者には受講料全額補助、他の資格試験合格者には納入した受講料の1/2補助の制度があります。詳細はアクティブセンターまでお越しください。

※開講講座は変更になることがあります。

※講座により開講時期が異なります。

◆ アクティブセンターの場所と問い合わせ先



中央学院 100 周年大学記念館（5F）

問い合わせ先

アクティブセンター

TEL 04 (7183) 6529

URL: <https://www.cgu.ac.jp/activecenter/>

「現代教養学部」の科目・配当表

区分	1年次		2年次		3年次		4年次		卒業所要単位数	
	第1セメスター	第2セメスター	第3セメスター	第4セメスター	第5セメスター	第6セメスター	第7セメスター	第8セメスター		
基盤教育	導入教育	必修	現代教養入門Ⅰ	現代教養入門Ⅱ					12	
			メディアリテラシー	私たちの生活とコミュニケーション						
	2年次 教育科目	必修	日本語表現基礎論	日本語表現実践論	日本語文章作成基礎論	日本語文章作成実践論				4
			英語リスニング・スピーキング基礎	英語リスニング・スピーキング実践	コミュニケーション英語基礎(Speaking)					
	言語スキル科目	必修	英語リーディング・ライティング基礎	英語リーディング・ライティング実践	コミュニケーション英語基礎(Writing)					6
			中国語Ⅰ	中国語Ⅱ	中国語Ⅲ	中国語Ⅳ	英語会話	英語会話実践		
		選択必修	韓国語Ⅰ	韓国語Ⅱ	韓国語Ⅲ	韓国語Ⅳ	※コミュニケーション英語実践(Speaking)及びコミュニケーション英語実践(Writing)はセットで履修すること ※第2外国語は同一言語の1及び2、3及び4をセットで履修すること			2
		ドイツ語Ⅰ	ドイツ語Ⅱ	ドイツ語Ⅲ	ドイツ語Ⅳ					
	選択	フランス語Ⅰ	フランス語Ⅱ	フランス語Ⅲ	フランス語Ⅳ					1
		日本語読解Ⅰ	日本語読解Ⅱ	日本語特講Ⅰ	日本語特講Ⅱ					
情報スキル科目	必修	日本語作文Ⅰ	日本語作文Ⅱ	日本語理解Ⅰ	日本語理解Ⅱ	※留学生のみ履修可能			4	
		日本語表記Ⅰ	日本語表記Ⅱ							
健康スキル科目	選択必修	日本語会話Ⅰ	日本語会話Ⅱ						4	
		情報リテラシー	情報処理論の基礎	情報処理論	情報表現論					
学問の基礎知識	選択必修	スポーツ健康論	スポーツ実践論						2	
		ストレスマネジメント	メンタルヘルスとセルフケア							
	人文の理解科目	選択必修	哲学概論	哲学と市民社会	論理学概論	論理と言語			4	
			倫理学Ⅰ	倫理学Ⅱ	青年の心理					
社会の理解科目	選択必修	日本史(前近代)	日本史(近現代)	歴史学(世界史)Ⅰ	歴史学(世界史)Ⅱ			4		
		法学概論	法と市民	憲法概論	統治の制度					
自然の理解科目	選択必修	政治学Ⅰ	政治学Ⅱ	社会学	選挙と政治			4		
		民法総則	経済と社会	経済の歴史						
選択	キャリアデザイン入門※							2		
	数学Ⅰ	数学Ⅱ	統計学	数理統計学						
選択	生物学Ⅰ	生物学Ⅱ	地球環境論	自然環境論				4		
	自然科学概論Ⅰ	自然科学概論Ⅱ	物理学Ⅰ	物理学Ⅱ						
専門基礎	選択必修	日本事情A	日本事情B	※留学生のみ履修可能					16	
		現代社会系科目	社会思想論	社会学の歴史	キャリアデザイン※	2				
		人間文化系科目	現代の地域行政	ジェンダー論						
		異文化系科目	流通と消費者	現代社会論						
	コミュニケーション系科目	宗教学	現代思想論							
選択必修	発達心理学	認知心理学						4		
	健康スポーツ科学									
選択必修	文化学概論							4		
	文化人類学	比較社会論								
選択必修	日本文化論	比較文化論						4		
	コミュニケーションの基礎	マスコミュニケーション論								
選択必修	メディア文化論	人間科学						4		
	人間関係論									
選択必修	外国文化研究Ⅰ	外国文化研究Ⅱ	異文化社会研修基礎講座	異文化社会現地研修	社会調査法	社会調査フィールドワーク	※春と秋の科目をセットで履修すること		4	
	地域と社会	地域連携講座								
選択必修	ボランティア学	地域ボランティア実践						4		
	生命科学	生命科学と技術	国際関係論	現代世界の政治経済と法	公共政策と政府の役割	政府の活動と評価				
選択必修	現代日本の社会と経済	現代アジアの社会と経済	地域と福祉	地域と政策				4		
	環境と社会	環境問題と水資源								
選択必修	男女共同参画論	NPO・NGO概論	現代社会の流通システム	ネット社会の流通				8		
	労働法の基礎	労働法の応用								
選択必修	世界史と現代	現代社会と宗教	道徳と教育	社会規範と市民	道徳と人間発達	社会と芸術		2		
	科学哲学	社会思想史	日本思想論	仏教の思想	比較文学	我孫子と文学				
選択必修	表現論	文体論	中国思想論	キリスト教の思想				2		
			ユダヤ教の思想	イスラム教の思想						
選択必修			日本史と現代	江戸時代の社会と文化				2		
			日本文学基礎論	日本文学実践論						
選択必修	国際文化論	都市文化論	中東の社会と文化	イスラムの社会と文化	スラヴの社会と文化	宗教文化とツーリズム		2		
	西欧の社会と文化	中国の社会と文化	英米文学基礎論	英米文学実践論						
選択必修	情報社会と倫理	地域コミュニケーション	家族社会学	メディアコミュニケーション論	ビジネスコミュニケーション論	視覚化表現とコミュニケーション		2		
	異文化コミュニケーション論	スポーツとコーチング	産業心理学	ダイバーシティ論						
ゼミナール	ゼミナール科目	必修	基礎演習	専門基礎演習	専門応用演習	卒業論文・卒業研究		4	16	16

※「キャリアデザイン」は2022年度より開講し、2017年度以降の入学者についても卒業所要単位として適用する。

※「キャリアデザイン入門」は2023年度より開講し、2017年度以降の入学者についても卒業所要単位として適用する。